すずめのなみだ

岸本 政臣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
すずめのなみだ

【Ｎコード】
Ｎ０１９５Ｆ

【作者名】
岸本　政臣

【あらすじ】
加藤家を舞台とした長女、綾が虫歯という難病（？）と戦う（？）感動（？）とコメディー小説

序章（前書き）

まずお詫び…
ジパング～都会の中の小さな日本～は一部のノンフィクションによるクレームにて休載となりました
心より深くお詫び申し上げます…

今度は完全フィクションです！！
そして、あくまでコメディーです！！
安心して、楽しんでお読み下さい（笑）

岸本　政臣

序章

８月、アスファルトを太陽がジワジワと照らし町全体に暑さが伝わる…

特にこの町は、見渡す限りアスファルトの団地の並ぶぶ住宅街で早朝五時であっても目に見えるような熱気と、蝉の鳴き声が鳴り響く、

建ち並ぶ団地の中の一号棟の中にある一家庭、早朝から忙しく食事の支度をする娘の姿がある。

加藤（カトウ）　綾（アヤ）高校二年生

父親の仕事の関係で、綾はいつもこうして早朝から母の手伝いとして家事を手伝う、いつもなら母と肩を並べて朝食の準備を行うのだが、今日はまだ、母の姿はない…

しばらくすると、あわててエプロンをしながら、母の久美子が現れる、

「おはよう、ごめんね…昨晩お父さん仕事場の人達連れてきたから遅くなっちゃって…」　手を合わせて謝る久美子に、綾はクスクス笑いながら、

「今日はもっと、ゆっくりでよかったのに…朝ご飯だけなら私一人でも大丈夫だから」と、言葉をかける。

すると、父の大祐も大きなあくびをして、頭をクシャクシャとかきながら食卓に顔を出す、

「母さん、すまんなぁ　昨日は遅くまでつき合わせちゃって」

「私はいいから、綾に謝ってちょうだい」

二人のやりとりに綾はまた、クスクスと笑う、

大祐は大工をしている為に朝が早い、　どんなに朝が早くても、一日の始まりは、家族で食事をして父を見送ろうと言う久美子の方針から朝は、家族で食事をとる、

「由香はまだ寝てるのか」

大祐が首をかしげながら障子をピシャッと開けると、綾の妹である由香のがまだ布団に入り込んでいる。

「おい、起きろ！！少しは綾を見習え！！」

気だるそうに起きてくる由香に、綾は

「おはよう」と声をかける、

「お姉ちゃんも大変ねぇ、夜中までお祭り騒ぎしてた人のお世話しなくちゃならなくて」と、嫌みを言う由香対して久美子は叱る、

ゴタゴタしながらも賑やかな朝食をむかえて加藤家の朝は始まる、六時半になると大祐も自宅を出る。　面倒くさそうに後片付けをする由香、それを手伝う綾、

久美子は洗濯物をほしながらパートに出かける準備を行う

「綾、そろそろ部活に行かないとでしょ、由香も受験生なんだから…昨日みたいに夏期講習さぼるんじゃないわよ」

二人にそう伝え、久美子はパートであるスーパーへ出かて行った。

綾は高校の陸上部に所属している、昨年も一年生でありながら関東大会で四百メートル走にて優秀な成績を残していた。

夏の地区予選にむけて今日も練習に向かうのであるが、綾は昨日から気になる事があった…

左下の奥歯に痛みを感じるのである…

昨日からズキズキと痛んでいた奥歯だが、今朝からまた調子がよろしくない、

だが、地区予選の近い綾にとってはそれどころではなかった…

部室に着くと、友人の朋美が綾に話かける、
「おはよ～綾、昨日〇〇のライブ行ったんだけど最高だったよ～超しびれた～」　なぜか朋美は失神して倒れた…

女子陸上部、部室…　だが本当に女子？と思える風景、まるでライブハウスのように流れる音楽と、短パンと下着のまま団扇を仰ぐ女子の姿もちらほら…
昨日からやっていたのかと思われる雀卓のあと、まるで獣のように、スナック菓子にむさぼりつく先輩達…
「おっはよ～綾」と言いながらポッキーを差し出す先輩…「おはようございます…お菓子は結構です」と答える綾、
面白くない顔をして、その場を去る先輩、するとちょうどそこに顧問である吉岡が入ってきた。

「おまえら～地区予選まであと一週間だというのに…なんだこのザマは！！、おまえら全員横にならべ！！」

「なんで私まで…先生だってわかってるでしょ…私はこの人達とはちがうって…」心の中でつぶやく綾…　「これから先生はお前らを殴る！！歯を食いしばれ！！」
「昨日なんの番組見たんだ…」と思う綾、
「明日から地獄だぞ～一人はみんなの為にだ～」一人目を叩く吉岡、何故か
「先生～」と泣きながら叫ぶ部員…
「うわっ、わかった…スクール〇ォーズだ…吉岡先生ただやりたかっただけだ…」と思う綾、
噛み締めるだけで痛い綾の奥歯…痛みをこらえながら、この吉岡のパフォーマンスと思える行動の終了をまつ綾、心の中で
「私にはないでしょ」と、どこかで思ってた…

「加藤…オマエまで…」吉岡はなぜか泣き出した、
「オマエは陸上辞めたら学校もやめる、加藤！！陸上はルールのある喧嘩じゃ！！」
「は？、何？、陸上も学校も辞めないし…あっ！！この人言いたいセリフ言ってるだけだ！！」と気付く綾の左頬を吉岡の右手が
「バチーン」と命中した…
綾はまるで明日の〇ョーの気分だった…
頬よりも左奥歯を綾の脳がヒットした…

「だけど…ルルルル～ル～ル～ル～ルル～」

この世の痛みとは思えない激痛を綾の神経が走った…

「ちがう…私はこんなキャラじゃない…」
そう思いながら綾は意識を無くし倒れこんだ…

発覚

「加藤、加藤、大丈夫か…」

吉岡の声がうっすらと聞こえる…

目が覚めた綾は保健室にいた。

そこには吉岡と保健室の本田先生の姿がある。

「加藤、すまない、先生そんなつもりじゃなかったんだ！！」

（そんなつもりではなかったかもしれないけど、ドラマに影響された事には間違いないだろ…）と綾は思う…

「いや、大丈夫です　そもそも先生のせいじゃなくて、私昨日から左奥歯がいたかったんです…」と綾が吉岡をフォローすると…

「左奥歯…」

本田先生の血相が変わった。

「ねぇ、加藤さん、その事はお家の人はしってるの？」と、本田が綾に問いかける、

「いぇ、昨晩からなんで、まだ…」

「左奥歯ズキズキって…まさか…」

吉岡が頭を抱え始めた、本田も口を手でふさぎオロオロしている…　どうしたんだろう？と不思議に思う綾、すると本田は

「とにかく今から病院に行きましょう」と綾に言う、

そして綾は、本田の引率にて学校を後にした…

綾の通う高校から、徒歩十分ほどの所にある

「薮　歯科」そこに綾は連れて来られた、

「歯医者位、一人で来れるのに…」と思う綾、　しかし本田は何故かけわしい顔をしている、　ガラガラの院内、綾はすぐに診察室に通される、綾の前には院長の薮(ヤブ)がいる、
「とりあえずレントゲン撮って、それから奥歯見せてもらいますね」
綾はレントゲン室にて歯のレントゲンを撮り、再度　薮の診察を受ける…
「じゃあ、一度外でお待ちいただけますか」

レントゲン撮って、歯を見ただけで何もしてない…どうせ来たなら、痛いからなんか処置してほしいんだけど…と思う綾、そう思いながらも待合室に向かう、　しばらくすると、慌てる様子で何故か久美子が現れた。
「綾！！大丈夫なの！！」慌てる久美子に対し綾は、
「大げさだなぁ…大丈夫だよ」と答える
「やはりご家族にも報告したほうがと思ってね、お母さんに連絡したの」と本田が言う、

「ガチャッ」と音がすると、診察室から薮が出てきた。
「ご家族の方ですか？、どうぞ中へ」
綾と久美子が診察室に通される、「お答えにくいのですが落ち着いて聞いて下さい、綾さんの病気は…」もったいぶる薮、

「虫歯じゃないんですか？」
ケロッと綾が言うと薮が、
「知っていたのかい？」と綾に問いかける
綾にはさっぱり空気がよめない…
「だって、ここ歯医者さんじゃないですか？昨日から左奥歯が痛いんです、今日治してもらえるんですか？」
横を見ると久美子が泣いている…綾はやっぱり空気がよめない…
「虫歯は今の医学だと凄く難しい病気なんだ、治すどころか、未だ

に研究が進んでいない位なんだよ…」

……綾には理解しきれない話になっていた……

「はぁ～ここ歯医者ですよね？私、ただの虫歯ですよね？黙って聞いてますけど、さっきから大げさな話ばっかりで、なんの処置もしてないじゃないですか」

「興奮する気持ちはわかるが、そういう病気なんですよ…」と答える薮とさらに号泣し始める久美子、

「わけがわからないんですけど…頑張って話合わせて、先生はよくそんな難病を専門に病院やって生活できますね、理解できないんですけど」

綾の怒りは完全に頂点にきていた。

「研究の為だよ…院内の奥はコンビニエンスストアを妻が営んでいる、収入のは全てそこからだよ…」

薮の病院は裏口からコンビニエンスストアの入口となっていた…

「海外とかにも治療法はないんですか～」と久美子が問いかける、

（ちょっと、お母さんまで何言ってるの）

綾には完全理解不能の診察室…

「日本の方が研究は進んでいます…成功しても銀歯は免れられません…」

「銀歯～」久美子は診察室を飛び出した…

「あの…とりあえず銀歯でもいいので治してもらえますか…今日…」

無言になる薮…

「とりあえず今日は薬を出しとくから、一緒に頑張ろう」薮は綾に伝えるが、ちがう病院に行こうと決意する綾であった…

災難

薮　歯科からの帰り道、久美子と歩く綾、
「たたが虫歯なのに、どうもみんなどうかしてる…」
どうしても綾には今朝からの全員の行動が理解できなかった…

「お母さん、私このまま別の歯医者さん行ってみるよ」
綾は久美子に言う、
「薮先生があぁおっしゃっているのよ…大学病院にでも行かないと、何も変わらないわよ…」
久美子が途方に暮れたような表情で言う、
（大学病院…やっぱりお母さんまでおかしい…）

自宅に着くと綾は、また奥歯が痛み始める…とりあえず薮からもらった薬を飲む……スースする…（これはもしかしてフリ〇クじゃないの…あのヤブ医者め…）綾は怒りに体が震える、　もう限界だ、綾は久美子に別の歯医者を要求しようと台所に向かう、綾は久美子に薬（フリ〇ク）を投げつける、
「お母さん、もう限界！！明日ちがう歯医者行ってくる！！」
すると、ちょうどそこに大祐が帰宅する、
「ただいま…二人ともどうしたの」

久美子は大祐に、綾の虫歯の事を説明した…　泣きながらやけ酒になる大祐…やはり綾には理解不能…

「だからあれほどいったんだ…ガキの頃からキシリトールはちゃんと食わせろって」と大祐は言いながら号泣、

「まぁ、それは間違ってはいないかも…」と思う綾、
「綾、大丈夫だ、まだ治らないと決まったわけじゃねぇ…きっと神様はおまえの見方してくれるはずだ」
なんだか虫歯が本当に大変な病気なのかと思いはじめる綾であった…
翌日、フリ〇クの効き目とは全く思わないが、昨日の晩も痛みはなく、ぐっすり休めて本日はすがすがしい朝である。
いつもと同じように朝食の手伝いを行う綾であるが、久美子の妙な気づかいがどうも落ち着かない…大祐も起きてきて綾に気づかい始める
「ここはお父さんがやるから、綾は横になってなさい」
綾のストレスは頂点まできていた…
「いい加減にしてよ…みんな虫歯くらいで昨日から大げさなのよ」
「綾、おまえ…どれだけみんなが、おまえの事心配してると思っているんだ！！」
何故か綾は、大祐に頬を叩かれる、折角具合のよかった奥歯に刺激が走った…
騒ぎで目覚めたか、由香が起きてくる…
「うるさいなぁ…朝からみんなして虫歯、虫歯って大げさなのよ…」
「…いた、常識人がここにいた…」
綾はうれしくてたまらなかった。
「そうよね由香！虫歯くらいでみんな大げさなのよね！」
綾が由香に問いかける、
「何が虫歯よ、虫歯くらいで……」
すると由香の目からツーッと涙がこぼれた、

「やっぱり……全然常識人じゃなさそうだ…」　大祐に叩かれた痛みと由香への期待の裏切りから綾は布団に潜り込んだ…

父の作った綾への朝食は、おかゆとすりおろし林檎…よく考えたら、昨日の昼からゴタゴタで、ろくに昼食をとっていない、
それなのにこの朝食、体がもたない…
「虫歯の事考えて食べやすい食事をつくったから」
大祐が自信ありげに話をする、
「あ、ありがとう…」
綾は完全に流していた、

空腹と炎天下にフラフラしながら、綾は部活へ向かう、
「冗談じゃない…地区予選まで一週間切ってるのに、こんな事に振り回されてる暇はないんだ…」
綾は昨日までの、穏やかな綾ではなくなっていた…

部室に着くとそこには整列する部員と吉岡の姿、
「おはようございます…」
（こんな早くから何してるんだろう？）
「加藤、ちょっといいか…」
吉岡が綾を校庭の方に連れ出す。

「先生、何ですか？」何か、言いづらそうな吉岡に綾が問い掛ける、
「加藤、今回の地区予選なんだが、加藤は見合わせた方がいいと思う…」
「えっ！何でですか！練習の調子も悪くないし、自己ベストでも上がってるの先生見てくれてますよね…」
興奮して食ってかかる綾に無言の吉岡…吉岡は綾に何か、伝えづ

らそうであった。
「加藤、おまえは今虫歯の治療に専念した方がいい、そうでないとおまえは取り返しのつかない事になる」
「はぁ～また虫歯ですか？」
もうなにが正しい答えなのかすら解らない、わけが解らなくなった綾に昨日からの空腹と、炎天下の下で頭に血が上った為、貧血が起こり、綾は倒れこんでしまった…
「加藤！加藤！おい！誰か！」
かすかに吉岡の声が頭の中で聞こえたまま、綾は気を失ってしまった…

「綾、綾！綾！！」
久美子の声が頭の中で響く、気がつくと綾はベッドの上に横たわっていた、
「お母さん…ここどこ…」
「薮先生の所よ」
薮…それを聞くと綾は急に飛び上がるように起き出した。
「は？私、貧血で倒れたのよね？なんで歯医者に運んで来るわけ？」
久美子に怒鳴りつける綾、
「虫歯が進行して貧血になったかもしれないからね…」
薮が姿を表す、
「はい？ちがいますから」
「まぁ、昨日の薬の副作用もあるかもしれないがね」
「アホ、このヤブ医者！！昨日の薬じゃなくてフリ〇クじゃねーか

よ！大体、貧血起きたのも、昨日からしょうもない話に巻き込まれて、朝から粥と林檎なんて病人みてえな飯しか食ってねぇからだよ！！」

「綾、先生になんて事を…」
ショックに泣き出す久美子、
「虫歯が進行して言語にも影響されはじめてるか…」

（虫歯じゃなくてあんたらが原因だよ…）
思っても言葉が出ない綾、

地区予選も出れない、イライラする、周りの人間はよくわからない…

確実に言える事は、このストレスだけは虫歯が原因だと確信する綾であった。

恋

地区予選のメンバーからも外され途方にくれる綾、

「私の意識が低いだけで本当は虫歯は重い病気なのだろうか…」

呆然と綾は空を眺める、これから私はどうなるのだろう…昨日も薮　歯科ではなんの治療も行わなかったが大丈夫なのだろうか…

綾の不安が高まってくる…

「綾、綾」

窓から下を見下ろすと、友人の智子がいた、

智子もこの、集合団地に住むいわゆる

「幼なじみ」である、

手招く智子に綾は外へ出る、

「吉岡先生から話を聞いたの…」

智子は綾を心配して来てくれたようだ、

「虫歯ってさ…私、よくわからないんだけど、大変な病気なんでしょ？」

（やっぱり智子もあっちの世界の人か…）

綾はその事で涙がこぼれた…

「泣かないで、お母さんからも聞いたの、難しい病気だけど治らない病気じゃないって言ってた」

智子が綾をなだめる、

「ちがうの、智子、なんで私一人だけ違う世界にいるのかと思ったら、つい…」　「大丈夫だよ綾、私がついてるから…一人じゃないよ…」

（しまった…私はまた勘違いされるようなセリフを言ってしまったかもしれない…）
「智子、ちがうの…大丈夫だから…」
「綾、辛い時とか一人で背負いこんじゃだめだよ」
辛いのは虫歯じゃなくてこの周囲の態度だ…

綾は智子と別れて、折角だから散歩をしようと公園まで歩く事にした。

公園に着くと綾の幼い頃遊んだ風景がそこにある、
「うわぁ、懐かしい…昔あのブランコでよくあそんだなぁ…」
綾はブランコに久しぶりに飛び乗った、
ブランコを揺らすとなんだか空が子供の頃より近くなった気がする。
青い空を見てるとこれまでのイライラがとんでいく…　しばらくその気分に酔いしれてると、なぜか綾の肛門を棒のような物が直撃した…
「えいっ！！」
「キャハハハハ！！」
子供がイタズラして綾に浣腸をした…
「ウッ☆□■△★！！」驚いた綾はブランコから落ちて、その瞬間
「グキッ…」
「ギャぁぁぁぁ！！」綾は右足をひねってしまった…
「あのガキィ…」
ハッ！！　私やっぱり性格悪くなってる…と思う綾、
「あいたたたぁ…」　だめだ、完全に足をくじいた…綾は立ち上がろうとするが痛くて立ち上がれない、すると後ろから綾に肩を貸す男性の姿が現れる、

「大丈夫ですか？」
綾と同い年位の男性、綾は一瞬言葉を失った、
「ありがとうございます」
「家は？近いの？送るよ」
男性はそう言うと綾を負ぶさり歩き始めた、

「あの、お名前は」綾が聞く、
「マサル、高山　優、君は？」
「加藤　綾です…」「綾ちゃんかぁ…ブランコ乗ってたの？あぁゆうのってさ、子供の頃の方がうまかったりするんだよね…ほら、三輪車とか、この間さぁ、友達と久々に缶けりやったらさぁ一回で息上がっちゃったよ」
たわいもない話で綾を和ませる優、綾にはまるで神様のようだった。

家の前では久美子が団地の前で井戸端会議をしているが、こちらに気づいたようだ、
「綾！！どうしたの」
「ちょっと…」

「こんにちは、綾さん公園で足をひねっちゃったみたいでして」優が説明する、
「とにかく病院に行きましょう、優君だっけ？ありがとうございます」
久美子は綾をタクシーに乗せ病院へ向かった。
開いた口が又ふさがらない綾…連れて来られたのはやはり薮　歯科、足を挫いたのに何故か見せられる歯のレントゲン…

「虫歯がだいぶ進行してる…それが足にきたのかもしれません」薮が語る
「チッ、ちげーよ…」綾がボソッとつぶやく…
「違うんです、私がブランコから落ちた時に足ひねっちゃって、それが原因です」綾が薮に説明をする。
「運動機能にも問題がでるのか…虫歯は…」薮がメモを取りだす、
「いゃ、違うんです、それはガキ…いゃ子供にちょっとイタズラされて、その時に足すべらしちゃったんです」

「子供…まさか！…幻覚まで…」薮はまたメモを取る、
隣りでは号泣の久美子、
（だめだぁ…この人達に今何を話してもムダなんだ…）「あの、やっぱ歯医者だから湿布とかないですよね…」あやが薮に聞くと、
「今の医学で歯に使用する湿布は…」
「黙れ、ジジイ！歯じゃなくて足だよ足！」薮の話途中で綾はまた乱暴に薮を怒鳴りつける、
「湿布、あぁ！シップね、ちょっと待ってね」肩から何かはがそうとする薮、
「言っとくけどピップじゃなくてシップ、湿布ですからね」綾が言うと、薮の手が止まった。
湿布は薬局で購入しよう、しかし完全にごまかされているが、進行してる虫歯はどうするんだと思う綾、表へでると心配してくれた優が待っていた、手には湿布を持っている、
（この人は神様だ…）

「おまえ…虫歯だったのか…てっきり足ひねっただけかと思って、俺、バカみたいにこんな物持ってきて、なんでいつも俺はバカなんだ…」　優は湿布を放り投げる、
「あっ、ダメ～ぇ！★☆」

綾は湿布を何故かスライディングキャッチ…捻挫悪化…

どうにか湿布ははってもらって、また優に背負われ帰宅する綾、
自宅に着くと、綾の姿を見て泣きじゃくる大祐の姿がある。
「ウォッ、ウウウウッ…くそっ！！おまえ！！」
何故か優の胸ぐらをつかみ、殴る大祐を久美子と綾は必死で止めた、

優を団地の下まで見送る綾、三階上から睨みつけるように様子を伺う大祐…
「ごめんね優君、今日はいろんなゴタゴタに巻き込んじゃって」
「あぁ、全然大丈夫だよ」

（この人神様だ…もうこれ以上いろんな人達をこの理解不能な虫歯に巻き込む訳にはいかない…）そう決意する綾、

「ねえ、優君、明日時間ある？」綾は優に問いかける。
「あるけど、何で？」
「明日、ちゃんと歯医者に行こうと思うの、だけどお母さんじゃ話にならないから…優君、一緒に来てくれない？」

「わかった、じゃあ朝迎えに来るよ」
そう言い、優は後にした。

角を曲がるまで見送ろう…ブレーキランプは無いけれど…綾はそう思った。

悲劇はその晩に起こった…　すっかり虫歯本来の病状を忘れてい

た綾、眠りにつくと奥歯に痛みが走る…眠れない…フリ〇クでスースーしてごまかす、なぜかフリ〇クの使用方法に納得する綾、
「痛い、耐えれない…」
眠れないままで夜が明ける…まだ痛い…うなされてると母の久美子が起きてきた。
「ちょっと！！綾！綾！大丈夫！お父さん！！！」

仕事どころではない…大祐は綾を負ぶさり駆けつける、
「お…お父さん…お願い…あの…薮、ヤブ医者以外の所へ…」
夢中で走る大祐に綾の声は聞こえない…
「あ！何だ！大丈夫だ！もうすぐつくから！頑張れ！！もう喋らないで大丈夫だ！！」
するとたどり着いたのはやはり…薮　歯科だった。

あわてて出てくる薮、綾はまたレントゲンを撮った後、診察室へ行く、

「な…なんてこった…虫歯が左上奥歯にも転移している…」
「転移！？」号泣しだす大祐
綾は頭の血管が切れた、薮の座る椅子を蹴り飛ばす、薮は転んだ、綾、捻挫悪化…
「なっ、何するんだい！？」

「あたりめーだろ！！このヤブ医者！！なんも治療しねーで幻覚がどうとか、足がどうとか、肝心の虫歯ほったらかしてりゃあ、他に移るのきまってんだろーが！！」
綾の態度に薮と大祐は呆然とする…　すると久美子と優が慌てるように入ってきた。

「綾！！」

綾はしばらく時が止まり、号泣しながら座り込んでしまった…

結局、また治療は何もしてもらえぬままで綾は優と二人で帰宅する、大祐と久美子はショックのあまりに薮　歯科で寝込んでしまった。　綾の住む集合団地と街を橋が繋ぐ、その間を流れる川、

綾は途方に暮れていた…

「フィンランドで歯医者やっても患者が少なくて全然商売にならないんだって、知ってた？」優は綾を励まそと、又、たわいもない話をする。

「あの歯医者も十分に商売になってないと思うよ…」

綾の声が暗い…話が終わってしまった…

「なぁ、虫歯って人にも移るのか？」優が綾に問いかける、

「さぁ、キスでもすれば移るんじゃない…」

やはり声の暗い綾…すると、優は急に綾を抱き寄せてキスをした…

……時間の止まる綾、

「今度から俺がおまえの辛い事も、痛い事も半分もらってやるから、元気出せよ…」

「…うん、　アリガトウ……」

虫歯の事は納得いかないけど、虫歯のおかげで少しだけ淡い思い

ができた綾であった。

旅

決して虫歯の後遺症ではないが、子供のいたずらから、その後続いたトラブルにより捻挫が最悪な状態になった綾は、松葉杖で生活をしなければいけない状態になっていた。

今日は地区予選当日、虫歯で出場できないとなれば納得いかないが、この足じゃどちらにしても無理だろうと、無理やり自分に言い聞かせていた。

しかし応援には行こうと綾は区民競技場に向かう、そして綾が区民競技場に着くと、まずそこで優に出会った、

「綾！」

「優君、今日頑張ってね」

優も別の高校で高跳びを専門競技として陸上部に所属していた。

「加藤！！大丈夫か！！」

吉岡と陸上部のメンバーが現れた、「おはようございます、今日は頑張って下さい」

「加藤…おまえ、こんな姿になっちまって…」吉岡が涙ぐむ…

「いゃ、先生、別に虫歯のせいではないんで…（きっかけは虫歯が理由だけど…）」

「まだ、夜とか痛むのか？」と吉岡が聞く、

「えぇ…時々（そりゃ、何も治療してもらってませんから…）」「臨海学校は行けるといいなぁ、その足じゃ泳げないだろうが、先生おまえの手伝い頑張るから」

（そうだ…来週は臨海学校で沖縄行くんだ…）

一週間あれば捻挫はだいぶ治ってくるだろう…

問題は…この虫歯だ…こいつを何とかしなければ…そう思う綾、帰りにあまり行きたくはないが薮の所へ行こうと考えた…

地区予選の応援の帰り道、今日は一人で薮の所によった、前回、綾が蹴飛ばした事でぎっくり腰になってる様子…

「大丈夫ですか…」

「大丈夫、今日はどうしたんだい？」薮が綾に問いかける、

綾は臨海学校の事を薮に説明した、

「沖縄…残念だがあきらめた方がいい…」薮が答える、

納得いかない綾、

「だから何でですか？そのために治療してほしいって言ってるじゃないですか？」

「気持ちはわかるが、宇宙飛行士も虫歯があると宇宙には行けないのだよ…」薮が苦しい答えを綾に答える…

「アホ！！ジジイ！！だれが無重力体験するって言ったよ！！沖縄だよ、沖縄！！」

綾は切れたついでに薮に脅しにかかる、

「わかりました…もう頼みません、マスコミに訴えます、《通院し続けても一度も治療せず、エチケット用品を薬と言って患者に出すやぶ医者》って」　薮は慌て始めた…

「わかった！！ちょっと待ってなさい！」

薮が席を外した、

診察室で待つ綾、しばらくして薮が戻ってきた…

「これを使いなさい…」

どこかで見たことあるような物…

「あの…これ何ですか…」綾が質問する、

「これかい、これは…あのボクサー薬〇寺が使ったマウスピースだ

よ！！」
自信ありげな薮の顔にマウスピースを投げつける綾、「アホ！治せ！！ガリガリ削れ！！」
綾の怒りは頂点にきている…
「わかった…落ち着きなさい、君にとって一番いい方法を考えるから…」
薮にそう言われて綾は帰る事にした…
「ちょっと待って！！これを持って行きなさい！！」
（ん…正露丸…そう言えばこれ、虫歯に効くんだ…）
正露丸を痛み止めとして痛みは何とかくい止め（？）て、捻挫はだいぶよくなったが、結局虫歯の治療はしないまま、臨海学校の当日を迎えた…

「もう虫歯でもいいや…行ってしまえ」そう思い綾は集合場所である学校に向かった。
学校に着くと、智子が綾に手を振っている、
「綾〜！」
笑顔で智子に駆け寄る綾、
「綾、よかったね、一緒に行けて　ウッ！！」
「加藤、加藤」
吉岡が呼んでいた。
「大丈夫か？困った事あったら先生に何でも言えよ！　ウッ！！」
？、ちょっと様子がおかしいと思う綾、
「それでは全員集合して下さい」　生徒達が整列をする、校長先生の話の後で、同伴教員の紹介がある。
「今日、養護として一緒に同行してくれる薮　歯科の薮先生です」

（なんであのジジイ来るんよ…）綾のテンションが一気に下がった、

空港まではバスで行く事になったが朝早かった為か、みんな気分が悪そうである…「智子、一緒に座ろう」綾は智子に言うと、智子は「あっ…うん…ウッ」どうも気分がわるそうだ…

空港まで向かうバス、全員グッタリ…（みんなどうしたんだろう…）綾は全然平気である…すると後部席からヒソヒソ話が聞こえる…「加藤やべぇょ…なんだよ…あの匂い…」

えっ！？私！？　綾は驚いた、隣を見ると智子は完全にまいってる…「ねぇ！！智子！！私何か匂う！！」すると智子は、「しょうがないよ…虫歯でしょ…しょうがない…」

虫歯？…ハッ！！わかった！！正露丸だ！！

綾は常備しすぎて慣れてしまったが、一般人にこの匂いはたしかに臭い…

すると薮もフラフラしながら綾の所へ来る…

「虫歯は悪化すると悪臭も放つ…これはは本当だ…」

綾はキレた！！

「アホ！おまえが医者のくせに処方箋じゃなくて、こんなもん渡すからだろうが！！」

綾が薮に正露丸を投げつけると正露丸は飛び散り、バスには悪臭が広まった…

「ギェェェェ～」

「グォォォォ～」

バス内は地獄絵図…

運転手は最後の力を振り絞ってバスを横に寄せた。　バスが止まると皆が飛び出して嘔吐しはじめた…

綾は呆然とその姿を見て荷物をまとめた、
「先生、私、ここで帰ります…」

帰り道、綾は涙が止まらなかった…
これも夏の思い出…とは思えなかった…

（神様…もし本当に神様がいるのら…もう私を転校させて下さい…）

青空の飛行機雲にそう願う綾であった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0195f/

すずめのなみだ

2010年10月28日03時33分発行